

## 法学政治学研究科総合法政専攻

### ①修士課程

- ・学位論文が満たすべき基準

法学・政治学の分野における基礎的な研究能力が示されていること、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力が示されていること。

- ・審査委員の体制

(1)論文審査委員2名(教授または准教授。うち1名は指導教員)

(2)最終(口述)試験委員(専攻長または副専攻長1名を含む計3名以上の教授または准教授。論文審査委員は原則として委員に加わる)

(3)専攻教育会議

- ・審査の方法

(1)論文審査委員は、それぞれ論文審査を行い、論文評点を定める。

(2)最終(口述)試験委員は、口述試験を行いその評点を決定した上で、論文評点と総合した総合評点に基づき、課程修了の可否の原案を作成する。

(3)専攻教育会議は、原案を審議し、その可否を決する。

- ・審査の項目

論文審査においては、着眼点・問題設定の独自性・重要性、先行研究の扱いの適切性、関連文献・資料・データの扱いの適切性、論証的的確性・説得力などの諸点に加え、論文の構成や文章の明晰性・読みやすさなども併せて総合的に審査し、評点を定める。口述試験においては、論文の主題・内容に関連した質疑を行い、論文において認められた能力を確認する。

### ②博士課程

- ・学位論文が満たすべき基準

〔課程内博士論文〕法学・政治学の分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識が示されていること。以上の基準を満たすのみならず、学界の発展への貢献が大きく、特に優秀と判定される場合には、その旨を明示して顕彰する。

〔課程外博士論文〕法学・政治学の分野において、学界の発展に大きく貢献する特に優秀な論文であること。

- ・審査委員の体制

(1)論文審査委員会(副専攻長2名、その他の教授または准教授3名以上、計5名以上。

ただし、論文内容に鑑み関連分野の専門家を審査に加えることが相当と認められる場合は、当研究科以外の学内の教員または学外の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員会の委員として加えることもある。指導教員は委員として加わるが、主査とはならない)

(2)博士学位審査会（研究科に常置。専攻長、副専攻長 4 名、その他の教授または准教授 15 名以上、合計 20 名以上）

(3)専攻教育会議

・審査の方法

(1)論文審査委員会は、論文審査および口述試験を行い、審査報告を作成する。

(2)博士学位審査会は、論文審査委員会の審査報告に基づき、学位授与の可否（特別優秀賞授与の可否を含む）を審議し、投票によってこれを決し原案とする。

(3)専攻教育会議は、博士学位審査会の原案に基づき、学位授与認定の可否を決する。

・審査の項目

論文審査においては、着眼点・問題設定の独自性・重要性、先行研究の扱いの適切性、関連文献・資料・データの扱いの適切性、論証の的確性・説得力、学界に対する貢献度などの諸点に加え、論文の構成や文章の明晰性・読みやすさなども併せて総合的に審査する。

口述試験においては、論文の主題・内容に関連した質疑を行い、論文において示された学識・能力を確認する。